

ちょっとしたコツで
意見文・論説文の点数アップ！

10点アップを目指す！ 指導ポイント集



本冊子は、文章読解・作成能力検定（文章検）をご受検くださっている団体の、指導者の方に向けた冊子です。


文章検に取り組んでくださっている先生方から、「合格点まで、あと10点足りなかったと生徒が悔しがっていた」などというお声をいただきます。一方、採点をしていると、「ちょっとしたコツを知っていたら、こんなミスはしなくてすむのに」と思う答案をよく見かけます。

そこで、本冊子では、多くの受検者の方が間違いやすい箇所や、段階的に文章力を身につけるために各級で特に重視して指導していただきたい箇所を、採点の項目ごとに、ポイントを絞って解説しました。

「何に気をつけて書かせればよいか知りたい」「文章量は書けているのに点数が伸びない」という疑問やお悩みをお持ちの先生方に本冊子をお役立ていただき、結果として受検者の方の文章力を伸ばさせることを目的としています。

本冊子の使い方

検定前の指導に

各級で、特に重視して指導していただきたい
観点に  のアイコンをつけています。

該当ページをご覧ください。

なお、初めて受検する方を指導される場合は、
受検級だけでなく、下位の級の「ツボ」も合わせ
てご指導いただくことをお勧めします。

検定後の振り返り指導に

「検定結果通知」の「記述問題の結果詳細」の
項目は、本冊子の「採点の観点」と対応していま
す。受検者の方が「△」「×」だった「採点の観
点」のページをご覧ください。

受検者の自学自習に

巻末には、学習者が自分の文章を採点する際に
使用する、「セルフチェックシート」を収録して
います。コピーして生徒の皆様にお配りください。

検定問題は変わっても、生徒の皆さんがつまずく場所は変わりません。

4級の受検者に特に多く見られる例を以下のページで取り上げ、添削例と指導ポイントを示しています。



4級

意見文

4級	採点の観点④ 論理性	よくある例 事実が意見に合わない……………10ページ	よくある例 その事実だけでは、 どちらの意見なのかわからない……………11ページ
4級	採点の観点③ 意見	よくある例 意見の書き方が不明確で意見とみなせない……………9ページ	よくある例 意見が条件で限定されている……………9ページ
4級	採点の観点② 出来事・体験・知識（＝事実）	よくある例 第1段落に事実が少ない……………7ページ	よくある例 第1段落が考えや想像ばかりで、 事実が適切に述べられていない……………8ページ
4級	採点の観点① 段落構成	よくある例 段落分けがなく、1段落になっている……………5ページ	よくある例 第1段落の冒頭に意見が書いてある……………6ページ

※設問では、1行25字の指定がされていますが、本冊子では紙面の都合上、1行の字数が異なっております。ご了承ください。

問題

友だちから苦手なこと、たとえば遊園地のジェットコースターに乗ることやカラオケに行くことなどに誘われることがあります。友だちから誘われた内容が苦手な場合、「断った方がよい」という意見と「断らない方がよい」という意見があります。どちらかの立場に立って、意見文を書きなさい。次の条件を守ることを。

条件1 意見文は、次の順番で二つの段落に分けて書くこと。

第1段落 出来事・体験・知識を述べる。

「友だちから誘われた内容が苦手な場合の対応」について、あなたの意見を支える出来事・体験・知識を述べる。

第2段落 意見を述べる。

友だちから誘われた内容が苦手な場合について、「断った方がよい」か「断らない方がよい」のどちらか、意見を明確に述べる。

条件2 1行25字のマス目に縦書きで、必ず10行以上、16行以内で書くこと。句読点も1字として数える。

句読点が行頭に来たときは、前行末欄内または欄外にうってよい。

注意

行数が不足した場合、または行数を超えた場合は採点の対象となりません。



書くことが苦手で、何から書き始めてよいかまったくわからないという学習者の方には、書き始める前の準備から学んでいただくことが重要です。文章検では以下のようなステップで書くことを提案していますので、ご指導の際に参考にしてください。詳しくは『基礎から学べる！文章カステップ 文章検4級対応』などの書籍もご参照ください。

意見文作成のステップ

① 問題文をよく読む

問題文をよく読んで、与えられた二つの意見を把握します。

② 意見を決める

与えられた意見のどちらを支持するかを決めます。

③ 意見を支える事実を考える

意見を支える出来事・体験・知識を思い出します。思いついたものをメモに残し、最も自分の意見につながりやすく、書きやすそうなものを一つ選びます。

④ アウトラインをメモする

②と③を合わせて「〜という事実があった。だから「テーマ」に賛成／反対だ。」という意見文のアウトラインをメモします。

⑤ 意見文を書く

アウトラインに従って意見文を書きます。事実については5W1Hを盛り込むなど、テーマに沿ってなるべく具体的に書きます。

⑥ 見直す

誤字・脱字はないか、原稿用紙の使い方は正しいか、見直します。

採点のポイント

採点の観点① 段落構成 (5〜6ページ)

- ✓ 段落を二つに分けて書いているか。
- ✓ 第1段落には「事実」、第2段落には「意見」を書いているか。

4級のツボ!

採点の観点② 出来事・体験・知識 (11事実) (7〜8ページ)

- ✓ 想像や推測ではなく、意見を支える出来事・体験・知識などの「事実」を書いているか。
- ✓ 5W1H (いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのよう)の情報を盛り込むなど、「事実」を具体的に書いているか。

4級のツボ!

採点の観点③ 意見 (9ページ)

- ✓ 問題文で提示された意見のどちらを支持するか、明確に述べているか。
- ✓ 条件を付けたら、場合分けをしたりせずに、明確に意見を述べているか。

採点の観点④ 論理性 (10〜11ページ)

- ✓ 第1段落で述べる事実が、第2段落の意見を支えているか。

標準解答

「断らない方がよい」立場

私は泳ぐのが苦手だ。だから以前は、海やプールに誘われても断っていた。しかし先日、せっかくの友人からの誘いだからと意を決し、私もプールに行くことにすると、プールには泳ぐ以外にも様々な施設があり、泳ぐのが苦手でも十分に楽しめた。また、友人と行ったことで、思っていたよりも楽しく過ごすことができた。しかも友人からその場で泳ぎを教えてもらって、これまでも少しだけ泳げるようにもなった。

苦手なことへの誘いだからと断ると、実際は楽しい場合も気づかないままである。友人に苦手なことに誘われた場合、断らない方がよい。

文章検の採点のポイント

4級では上にあげた「採点の観点」について、ができているかどうかを採点しています。観点ごとにを満たす書き方を練習すれば説得力のある意見文を作成することができます。標準解答が採点のポイントを満たしていることをご確認ください。

よくある例

段落分けがなく、1段落になっている

結果通知
コメント

×..段落数が2つでない、冒頭に意見を述べている、事実または意見がない、など条件1と異なっています。



意見 ははつきりと断る方がよいと考える。

事実 先月、休みの日に、友だちと二人で遊園地に行った。友だちは、遊園地に入っすぐに、名物のジェットコースターに乗りたいた言った。僕は怖がり、絶叫マシンは苦手なので断りたかった。しかし、友だちはジェットコースターを楽しみにしていたようで断りづらく、つい一緒に乗ってしまった。しかし、名物というだけあって、途中で気を失うかと思うほど怖く、僕は泣き出しそうになってしまった。ジェットコースターを降りてからも、車酔いのように気持ち悪くなってしまった、遊園地を楽しむことができなかつた。この経験から、僕は友だちから誘われても苦手なこと

「事実」↓「意見」

の順に書かれています
が、段落分けがされて
いません。

指導ポイント

問題の条件が守られていなければ、能力を正しく測ることができません。まずは問題をよく読んで、条件を守って解答を書くようにご指導ください。



意見 ●この経験から、僕は友だちから誘われても苦手なことははつきりと断る方がよいと考える。

事実 先月、休みの日に、友だちと二人で遊園地に行った。友だちは、遊園地に入っすぐに、名物のジェットコースターに乗りたいた言った。僕は怖がり、絶叫マシンは苦手なので断りたかった。しかし、友だちはジェットコースターを楽しみにしていたようで断りづらく、つい一緒に乗ってしまった。しかし、名物というだけあって、途中で気を失うかと思うほど怖く、僕は泣き出しそうになってしまった。ジェットコースターを降りてからも、車酔いのように気持ち悪くなってしまった、遊園地を楽しむことができなかつた。

改行し、1字あけて書き始めます。

指導ポイント

段落分けの意味を指導し、意味ごとのまとまりに分けて文章が記述されている方が、読み手にとってわかりやすいということを理解させてください。

採点の観点① 段落構成

4級のツボ!

よくある例

第1段落の冒頭に意見が書いてある

×…段落数が2つでない、冒頭に意見を述べている、事実または意見がない、など条件1と異なっています。

結果通知
コメント

文章が、意見から始まっています。



友人から苦手なことに誘われたら、断るべきだ。私の父は、休日は家で静かに過ごするのが好きなタイプだ。「休みにあちこち出かけたりスポーツをしたりする人も多いけれど、自分はそのいうのは苦手だな」といつも言っている。近所のスーパー銭湯で疲れをいやしたり、ゆっくり読書をしたりして英気を養うのが週末の父の過ごし方である。ところが先週の日曜日、父は会社の同僚の誘いを断り切れず、朝早くからゴルフに出かけた。帰宅した父は疲れ切っており、「せっかくの休みなのに、まるで仕事をしたよなものだ」とふきげんで、家の中のふんいきも暗くなってしまった。

このようなことから、友人から苦手なことに誘われたら、断るべきだと思う。



第1段落から冒頭の「意見」を削除しました。

私の父は、休日は家で静かに過ごするのが好きなタイプだ。「休みにあちこち出かけたりスポーツをしたりする人も多いけれど、自分はそのいうのは苦手だな」といつも言っている。近所のスーパー銭湯で疲れをいやしたり、ゆっくり読書をしたりして英気を養うのが週末の父の過ごし方である。ところが先週の日曜日、父は会社の同僚の誘いを断り切れず、朝早くからゴルフに出かけた。帰宅した父は疲れ切っており、「せっかくの休みなのに、まるで仕事をしたよなものだ」とふきげんで、家の中のふんいきも暗くなってしまった。

このようなことから、友人から苦手なことに誘われたら、断るべきだと思う。

なぜ「意見」より先に「事実」を書くのかについては、8ページの指導ポイントをご参照ください。

第1段落が「意見」で始まっていて、問題文で指定された「事実」↓「意見」の順で書くという条件に反しているため、「①段落構成」の観点で減点になります。

続く文章では、「事実」を具体的に書いているので「②出来事・体験・知識」の観点は○になります。

よくある例

第1段落に事実が少ない

結果通知
コメント

△…テーマに関して具体的なイメージを伝えるには言葉不足です。



ぼくは、友人に苦手なことに誘われた場合、断ることにしています。なぜなら、一度友人の誘いで苦手なスポーツをさせられ、嫌な目にあつたからです。苦手なことにはいやいや付き合うようなことは、時間の無駄だと思えます。同じ時間を過ごすなら、好きなこと、得意なことを一生懸命やったほうがよいと思えます。よって、友人に誘われても、苦手なことは断った方がよいと思います。

冒頭の一文は自分の習慣について述べた「事実」と言えます。しかし、続く文章は、「なぜなら」という接続詞が示すとおり、その習慣を持つに至った「理由」を述べています。また、「〜と思う」という文章は自分の考えを述べていて、「事実」を具体的に書いているとは言えません。よって、「②出来事・体験・知識」の観点で減点されます。

加えて、この答案のように第1段落に「事実」以外の記述が多いと、「①段落構成」の観点でも減点になってしまいます。



ぼくは、以前友人の誘いで町内会のソフトボール大会に出ました。ぼくは運動が好きではなく、外で大勢の人と遊ぶのも苦手でした。仲のよい友人に「メンバーが足りない、立っているだけでいいから」と頼まれたのでいやいやながら参加しましたが、やはりエラーと三振ばかりで恥をかき、退屈な時間になってしまいました。こんなことなら、家でゆっくりゲームをしたかったと、参加したことを後悔しました。よって、友人に誘われても、苦手なことは断った方がよいと思います。

この添削例では、「苦手なスポーツをさせられた」経験について、その結果までを詳しく述べ、「苦手な誘いは断った方がよい」という「意見」に説得力を与えています。4級では、「事実」をできるだけ具体的に述べ、自分の「意見」を支えることを目指します。

4級のツボ!

よくある例 第1段落が考えや想像ばかりで、事実が適切に述べられていない



結果通知コメント

×…テーマに関する事実を述べている部分が見つかりません

考え 想像

私は、友人からの誘いを 苦手なことに打ち勝つきっかけにするのがよいと思う。例えば、運動が苦手な人が、運動の誘いを断り続けていたら、ずっと苦手なままになるかもしれない。運動に苦手意識があったとしても、友人からの誘いをきつかけにして、挑戦してみるべきではないだろうか。苦手だからと断ってばかりいるのは、苦手を克服するチャンスを逃しているようでもったいないと思う。

したがって私は、苦手なことであっても友人からの誘いは断らない方がいいと思う。

考え

「事実」を述べるべき第1段落が、考えや想像ばかりになっているので、「②出来事・体験・知識」の観点で減点になります。また、右の答案では、「①段落構成」「④論理性」の観点でも減点となります。

▽段落構成 第1段落に事実がなく、段落構成の意識が不足していると思なされる

▽論理性 意見を支える事実がないことから、文章の論理性も不足していると思なされる



第1段落

考えや想像ではなく、自分の経験を中心に書き直しました。

私は運動が苦手だった。ところが、中学校に入学した時に、友だちにどうしても卓球部の体験入部についてきてほしいと頼まれて、断り切れずにしぶしぶで行った。卓球部の先輩方は私たちを歓迎してくれて、ラケットの持ち方から丁寧に指導してくれた。私が想像していたような体育会系の厳しいクラブではなく、和気あいあいとしていて、卓球という競技も思っていたよりずっと楽しかった。結果、私は卓球部に入部し、二年生でレギュラーにもなり、充実した中学校生活を送ることができた。体力もついて、運動の苦手意識もいつのまにかなくなっていた。

指導ポイント

意見文を書くときは、出来事や自分の体験といった客観的な「事実」を先にまとめて書きましょう。「意見」の前に「事実」を書くのは、それによって、読み手を書き手側に引き込む作戦なのです。書き手が体験した「事実」を具体的に書くことで、読み手を、書き手と同じ体験をしたかのような気分させるのです。つまり読み手に、書き手と同じ体験をさせて、書き手の「意見」に賛同させようというわけです。

「事実」を「意見」の前に書くのは、その「事実」によって、読み手に対する説得力を増す方法なのです。

意見の書き方が不明確で意見と見なせない

よくある例

結果通知コメント
 ×…どちらの意見なのが不明確です。どちらの意見なのかを、はっきりと述べましょう。



先日、音楽を趣味にしている友人からロックバンドのライブに誘われた。私は大きな音が苦手なので最初は遠慮したが、友人が「スピーカーから離れた後ろの方で聞けば大丈夫だよ」と言うので行ってみた。すると、演奏も照明もとても華やかで、想像していたよりずっと楽しく、大音量もむしろ適度な刺激を感じた。それ以来ライブハウスに通うのが趣味になってしまった。

このように、友人からの誘いがきつかけて、苦手だったものが好きなものになることがある。だから私は、苦手な誘いでも断らないようにしている。

自分の習慣を述べていることになり、どちらの「意見」を支持するか明確に書かれていないと言えません。

第2段落

このように、友人からの誘いがきつかけて、苦手だったものが好きなものになることがある。だから私は、苦手な誘いでも断らない方がよいと考える。

自分の「意見」であることがはっきりとわかるように書きます。

意見が条件で限定されている

よくある例

結果通知コメント
 △…条件をつけるなどして、意見があいまいでした。はっきりと、言い切りましょう。



第2段落
 友人から、自分ががまんできないほど苦手なことに誘われたときは、断った方がよい。

条件

指導ポイント

条件づけ（但し書きや例外など）があると、その条件にあてはまらないときの意見がわからなくなってしまう。ダイアログ形式のような書き方が求められていると割り切って、明確に伝えることを指導してください。



友人から苦手なことに誘われたときは、断った方がよい。

よくある例

事実が意見に合わない

結果通知
コメント

×…事実または意見が読み取れない、あるいは事実と意見が矛盾しています。



「断らない方がよい」という「意見」を予想させる「事実」に、「断った方がよい」という「意見」が続きます。

私はカラオケが苦手だ。そもそも人前で歌うのはとても恥ずかしいし、他人のうまくもない歌を聴かされるのはつらいものだ。ところが先日、クラスメイトにカラオケに誘われた。苦手なので断ったのだが、何度も強く誘われ、断り切れずに放課後、五人ほどでカラオケボックスに行った。真面目で勉強ばかりしていると、思った人が踊りながらコミックソングを歌ったり、運動部で活躍している人がアニソンを歌ったりして、普段とは違う一面を見ることができて楽しかった。

とはいえ、自分の好き嫌いをまげてまで他人に付き合うのは主体性がない。友人に苦手なことに誘われたときは断るべきだ。

断らなくて楽しかったという

「事実」＝断らない方がよいと

いう「意見」を予想させます。

予想に反して断る方がよ

いという「意見」が続いて

います。



ここでは「断った方がよい」という立場に立って、体験などの「事実」を思い出し、「事実」の内容を変更します。

私はカラオケが苦手だ。そもそも人前で歌うのはとても恥ずかしく、緊張して声が出なくなってしまう。加えて、他人のうまくもない歌を聴かされるのは苦痛以外の何物でもない。ところが先日、クラスメイトにカラオケに誘われた。苦手なので断ったのだが、何度も強く誘われ、断り切れずに放課後、五人ほどでカラオケボックスに行った。そのとき、きつとつまらなそうな顔をしていたのだろう、「どこか具合が悪いのかい」と聞かれて、とても申し訳ない気持ちになった。

友人に苦手なことに誘われたときは断った方がよい。無理につきあっても楽しむことはできず、かえってまわりの人に気をつかわせてしまう。

指導ポイント

第1段落で述べる「事実」は、第2段落の「意見」につながるものでなければなりません。「意見」に合う内容を「事実」として提示する練習をさせてください。創作や脚色の有無を採点で問題にすることはありません。

よくある例

その事実だけでは、どちらの意見なのか分からない

結果通知
コメント

△…事実だけではどちらの意見を支持するかわからないなど、文章全体の筋道を立てた述べ方が不十分です。事実と意見の関係を考えるようにしましょう。



私は昔から体を動かすのが苦手で、休みの日も家の中で過ごすのが好きだった。そんな私を、友人がハイキングに誘ってくれた。自然の中を二時間半も歩くのは初めての経験で、坂道では息が切れてしまった。丘の頂上から見た景色はきれいだった。帰りは足が少し痛んだけれど、友人達に励まされて、何とか歩いた。この経験から、友人に苦手なことに誘われても、断らない方がよいと思う。

第1段落に出来事を具体的に書いていますが、第1段落を読んだだけでは、誘いを断わらなくて「成功した」のか「失敗した」のかがわかりません。「事実」が「意見」を支え切れていません。

成功であることを強調します。



添削例では、自分の体験が「意見」をどのように支えるのかを意識し、傍線部②を追加しました。「苦手な誘いに応じた結果」を、成功／失敗が断言できるように書くことで、「意見」が説得力を増しました。

また、傍線部②で追加した「達成感」「気持ちよさ」が伝わるように、傍線部①の表現を追加したり、変更したりする工夫もしています。

私は昔から体を動かすのが苦手で、休みの日も家の中で過ごすのが好きだった。そんな私を、友人がハイキングに誘ってくれた。自然の中を二時間半も歩くのは初めての経験で、坂道では息が切れてしまった。①でも、①頑張った甲斐があって丘の頂上から見た景色は①とてもきれいだ①だった。帰りは足が少し痛んだけれど、友人達が①励ましてくれたので、何とか①最後まで歩きとおすことができた。②たくさん歩いた達成感と、自然の中で過ごした気持ちよさで気分がリフレッシュされ、翌週の学校や塾の課題をいつも以上に頑張ることができた。

この経験から、友人に苦手なことに誘われても、断らない方がよいと思う。

検定問題は変わっても、生徒の皆さんがつかずく場所は変わりません。

3級の受検者に特に多く見られる例を以下のページで取り上げ、添削例と指導ポイントを示しています。



3級

意見文

3級	採点の観点⑤ 論理性	よくある例 事実が意見に合わない……………	22ページ
3級	採点の観点④ 理由	よくある例 個人の感覚に基づいて理由を述べている……………	19ページ
3級	採点の観点③ 意見	よくある例 両方の意見が書かれている……………	18ページ
3級	採点の観点② 出来事・体験・知識（＝事実）	よくある例 意見が条件で限定されている……………	18ページ
3級	採点の観点① 段落構成	よくある例 言葉足らずであいまいな意見……………	19ページ
3級	採点の観点① 段落構成	よくある例 事実（第1段落）が簡単すぎて、状況がイメージできない……………	17ページ
3級	採点の観点① 段落構成	よくある例 第1段落で意見と意見の理由を述べており、事実がない……………	15ページ
3級	採点の観点① 段落構成	よくある例 ひとつの段落に、条件1で指定された以外の内容が含まれており、段落の役割があいまいになっている……………	16ページ

※設問では、1行25字の指定がされていますが、本冊子では紙面の都合上、1行の字数が異なっております。ご了承ください。

問題 ものを壊す、忘れ物をする、試合でミスをするなど、だれでも失敗することがあります。友人が失敗したとき、「今後へのアドバイスをする方がよい」という意見と「今後へのアドバイスはしない方がよい」という意見があります。どちらかの立場に立って、意見文を書きなさい。次の条件を守ること。

条件1 意見文は、次の順番で三つの段落に分けて書くこと。

第1段落 出来事・体験・知識を述べる。

「友人が失敗したときにアドバイスをすること」について、あなたの意見を支える出来事・体験・知識を述べる。

第2段落 意見を述べる。

友人が失敗したとき、今後に向けて「アドバイスをする方がよい」か「アドバイスはしない方がよい」のどちらか、意見を明確に述べる。

第3段落 意見の理由を説明する。

条件2 1行25字のマス目に縦書きで、必ず16行以上、20行以内で書くこと。句読点も1字として数える。句読点が行頭に来たときは、前行末欄内または欄外にうってよい。

注意

行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。



書くことが苦手で、何から書き始めてよいかまったくわからないという学習者の方には、書き始める前の準備から学んでいただくことが重要です。文章検では以下のようなステップで書くことを提案していますので、ご指導の際に参考にしてください。詳しくは『基礎から学べる！文章力ステップ 文章検3級対応』などの書籍もご参照ください。

意見文作成のステップ

① 問題文をよく読む

問題文をよく読んで、与えられた二つの意見を把握します。

② 意見を決める

与えられた意見のどちらかを支持するかを決めます。

③ 意見を支える事実・理由を考える

①②で決めた意見を支える出来事・体験・知識（＝事実）を探します。

②自分の意見を説明する理由を考えます。

④ アウトラインをメモする

②と③を合わせて「〜」という事実があった。だから「テーマ」に賛成／反対だ。その理由は「〜だ」という意見文のアウトラインをメモします。

⑤ 意見文を書く

アウトラインに従って意見文を書きます。事実については5W1Hを盛り込むなど、テーマに沿ってなるべく具体的に書きます。

⑥ 見直す

誤字・脱字はないか、原稿用紙の使い方は正しいか、見直します。

採点のポイント

採点の観点① 段落構成 (15～16ページ)

- ✓ 段落を三つに分けて書いているか。
- ✓ 第1段落には「事実」、第2段落には「意見」、第3段落には「理由」を書いているか。

採点の観点② 出来事・体験・知識 (17ページ)

- ✓ 意見を支えるような出来事・体験・知識などの「事実」を具体的に書いているか。

採点の観点③ 意見 (18～19ページ)

- ✓ 問題文で提示された意見のどちらを支持するか、条件付けや場合分けなどをせず、明確に述べているか。

採点の観点④ 理由 (19～20ページ)

- ✓ 書き手の個別の体験ではなく、一般的な説明になっているか。

採点の観点⑤ 論理性 (21～22ページ)

- ✓ 第1段落で述べる事実が、第2段落の意見を支えているか。
- ✓ 第3段落で述べる理由が、第2段落の意見を支えているか。

■標準解答

「アドバイスをする方がよい」立場

友人はよく忘れ物をする。ハンカチを忘れるくらいならかまわないのだが、先日は二人で見に行く映画のチケットを忘れてきた。友人自身も忘れ物のひどさに落ち込んでいたから、「持っていくものリストを作る」「前日の夜にカバンの中身を確認する」「入れ忘れに気付いたら、気付いたときにすぐ用意する」と、忘れ物を減らせるようなアドバイスをした。中でも三つめは、面倒くさがりで何でも後回しにしがちな友人には効果的だと思つたことだ。友人も、「それは思いつかなかった。すぐにやってみる」と言ってくれた。

それから本当にアドバイスを取り入れてくれたようで、アドバイスをしてよかったと思う。このことから考えると、友人が失敗したとき、今後のためのアドバイスはした方がよい。

だれでも失敗はしたくないものだ。だが、失敗しないために何をすればよいかは、だれもがわかっているとは限らない。友人なら、相手の性格などをふまえた改善策を出せるので、効果のあるアドバイスができる。

理由

意見

事実

●文章検の採点のポイント

3級では上にあげた「採点の観点」について、**✓**ができているかどうかを採点しています。観点ごと**✓**を満たす書き方を練習すれば説得力のある意見文を作成することができます。標準解答が採点のポイントを満たしていることをご確認ください。

採点の観点① 段落構成

よくある例 第1段落で意見と意見の理由を述べており、事実がない



結果通知
コメント

×…段落が3つでない、冒頭に意見を述べている、事実・意見・理由のいずれかがないなど条件1と異なっています。

個人的な理由

意見

理由A

意見

理由B

友人が失敗したとき、今後のためのアドバイスをする方がよいと思う。なぜなら、花粉症の薬をしょっちゅう飲み忘れる友人に、飲み忘れない方法をアドバイスして、飲み忘れがなくなったと喜ばれるなど、アドバイスをして喜ばれた経験が何度もあるからだ。

以上の理由から、友人が失敗したとき、今後のためのアドバイスをした方がよいと考える。

失敗の原因は、失敗した本人にはなかなか気づけない。アドバイスをしてもらえれば、そのアドバイスによって、今後は失敗しなくなったたり、失敗を減らしたりできるのだ。

一般的な理由

3級の意見文は、事実↓意見↓理由の順に書きます。しかし、右の答案ではその順序が守られていません。また、第1段落の2文目は、自分の体験を、意見の「理由」として書いているため、「事実」がないとみなされます。したがって、「①段落構成」だけでなく、「②事実」「⑤論理性」も×になってしまいました。

なお、「理由A」が第3段落に書かれていた場合は、「③理由」は△になります。↓20ページ参照。



条件に合うよう、事実↓意見↓理由の順に書き直しました。

事実

意見

理由

友人にアドバイスをして、感謝されたことが何度もある。たとえば、花粉症の友人が、しょっちゅう朝の薬を飲み忘れて、授業中にくしゃみをしていた。そこで、「毎朝必ず目にするところ、例えば、冷蔵庫のドアに、『食後に薬!』と書いた紙をはっておくといいよ」とアドバイスした。友人は素直にこれを実行してくれて、それ以来、薬の飲み忘れはなくなったと言っていた。

この経験から私は、友人が失敗したとき、今後のためのアドバイスをした方がよいと考える。

失敗の原因は、失敗した本人にはなかなか気づけない。アドバイスをしてもらえれば、そのアドバイスによって、今後は失敗しなくなったたり、失敗を減らしたりできるのだ。

指導ポイント

意見文を書くときは、出来事や自分の体験といった客観的な「事実」を先にまとめて書くよう指導してください。「意見」の前に「事実」を書くのは、それによって、読み手を書き手側に引き込む作戦なのです。書き手が体験した「事実」を具体的に書くことで、読み手を、書き手と同じ体験をしたかのような気分させるのです。つまり、読み手に、書き手と同じ体験をさせて、書き手の「意見」に賛同させようというわけです。

「事実」を意見の前に書くのは、その「事実」によって、読み手に対する説得力を増す方法なのです。

採点の観点① 段落構成

よくある例

ひとつの段落に、条件1で指定された以外の内容が含まれており、段落の役割があいまいになっている

△…3段落構成ですが、書かれた内容が条件

1にあてはまっていません。

結果通知
コメント



事実

友人が、数学のテストで、解答欄をひとつずつずらして解答したと落ち込んでいた。そこで、「一問ずつ確認しながら記入しな
くちゃ」と言ったら、「余計なお世話だ。そんなことより、まず
慰めてくれた方がいいだろう」と言われてしまった。だから、友
人が失敗してもアドバイスはほしくない方がよいと思う。
よかれと思ってしたことが裏目に出ってしまった。友人が失敗し
たときは、今後に向けてアドバイスをしない方がよい。

意見

事実

ほかに、英語のテストで赤点を取った友人に、新出単語をし
っかり覚えておくとよいと言ったら、「それができないから苦労
している」と怒られてしまったこともあった。失敗するとだれし
も落ち込む。そんなとき、必要なのはアドバイスではなく共感や
慰めだ。アドバイスは、相手のミスを責めているように受け取ら
れかねない。

理由

第1段落と第3段落の役割分担があいまいになっています。

◇第1段落では、「事実」を書いています、最後に「意見」を述べて、第2段落の役割を横取りしています。

◇第3段落では、後半に「理由」が書かれています。しかし前半3行は、「理由」ではなく第1段落とは別の「事実」です。



条件に合うよう、第1段落と第3段落を書き直しました。

◇第1段落最後の「意見」を削除しました。

◇第3段落は、「事実」を第1段落に移し、「理由」だけにしました。

事実

友人が、数学のテストで、解答欄をひとつずつずらして解答したと落ち込んでいた。そこで、「一問ずつ確認しながら記入しな
くちゃ」と言ったら、「余計なお世話だ。そんなことより、まず
慰めてくれた方がいいだろう」と言われてしまった。ほかに、
英語のテストで赤点を取った友人に、新出単語をしっかりと覚えて
おくとよいとアドバイスをしたら、「それができないから苦労し
ている」と怒られてしまったこともある。

意見

よかれと思ってしたことが裏目に出ってしまった。友人が失敗し
たときは、今後に向けてアドバイスをしない方がよい。

理由

失敗するとだれしも落ち込む。そんなとき、必要なのはアドバ
イスではなく共感や慰めだ。アドバイスは、相手のミスを責めて
いるように受け取られかねない。

指導ポイント

問題の条件が守られていなければ、それだけで減点となります。問題の形式や条件を理解できるような指導が必要です。

よくある例 事実（第1段落）が簡単すぎて、状況がイメージできない



結果通知
コメント

△…テーマに関して具体的なイメージを伝えるには言葉不足です。

問題文は、書く必要はありません。

第1段落と第2段落

ものを壊す、忘れ物をする、試合でミスをするなど、友人が失敗したとき、「今後へのアドバイスをする方がよい」という意見がある。
「友人が失敗したときにアドバイスをする」という意見がある。
①ある日、友人が②忘れ物をして③困っていたので、彼女に④気を付けるようアドバイスしたら、彼女は⑤怒ってしまった。
友人が失敗したとき、今後に向けてのアドバイスはしない方がよい。

右の答案の第1段落のうち、「事実」と読める部分は最後の一文だけで、あとの部分は、問題文をほぼそのまま書き写しているだけです。問題文は書く必要はありません。それよりも、問題文がなくても話題がわかるように、「事実」を、その状況がイメージできるように書くことが大切です。

今回の意見を支えるために最も重要なのは、「友人はどういう状況でどういうふうになってしまったか」です。それがわかるよう、⑤を詳しく書きます。さらに、①から④の内容も詳しく書くと、読み手は、より状況をイメージしやすくなります。



第1段落

①今週の美術の授業で水彩画を描くことになっていた。先週配られた予定表に、「絵の具を持つてくること」とあった。しかし、友人は、②絵の具を持つてくるのを忘れて、③授業中手持ちぶさたにしていた。そこで、見かねた私が自分のものを使わせてあげた。そのついでに、「④予定表はちゃんと見ておいた方がいいよ」とアドバイスした。すると友人は、「⑤自分でもしまったと思っっているのにそんなこと言わないで」と怒りだしてしまった。

指導ポイント

第1段落は、その次に来る意見を支える、つまり、意見が推測できるように事実を書きます。具体的にイメージできる内容を書くことで、読み手が次に来る意見を推測し、それに賛同してくれることをねらうのです。

「事実」と「意見」の関係については、21ページと22ページで詳しく解説しています。合わせてお読みください。

両方の意見が書かれている

よくある例

結果通知
コメント

×…意見が途中で変わるなど、どちらの意見
なのかが明確に示されていません。

「アドバイスをした方がよい」という意見



友人が失敗したとき、今後に向けてのアドバイスをした方がよい場合もあれば、アドバイスをしない方がよい場合もある。

「アドバイスをしない方がよい」という意見



友人が失敗したとき、今後に向けてのアドバイスをしない方がよい。

意見を明確に述べます。

指導ポイント

文章検の意見文では、ふたつの意見のどちらの立場をとっているかを示すことを求めています。どちらであっても点数に差はありません。しかし、どちらでもない場合やどちらの意見かが明確でない場合は減点されます。一方の意見に決めて書くように指導してください。

意見が条件で限定されている

よくある例

結果通知
コメント

△…条件をつけるなどして、意見があいまい
でした。はっきりと言い切りましょう。

条件がついています。



友人が失敗したとき、よほど親しい友人でもない限り、アドバイスをしない方がよい。

条件をとりました。



友人が失敗したとき、今後に向けてのアドバイスをしない方がよい。

指導ポイント

条件づけのことが入ってしまうと、その条件ではないときの意見が不明確になってしまいます。ディベート形式のような書き方が求められているのだと割り切って、明確に伝えることを指導してください。

3級

採点の観点③

意見

3級のツボ!

よくある例

言葉足らずであいまいな意見

結果通知
コメント

△…条件をつけるなどして、意見があいまいでした。はっきりと言い切りましょう。



どんなとき? だれに?

第2段落

私は、アドバイスした方がよいと思う。



友人が失敗したとき、今後に向けてのアドバイスをした方がよい。

この問題では、「友人が失敗したときの、今後に向けてのアドバイス」がテーマです。単に「アドバイス」だけでは、あまりにも漠然としています。

指導ポイント

意見は、問題文で示された設定を知らない読み手にも、どのようなテーマで、どのような意見について書かれた文章なのか伝わるように書くことを「指導」ください。

3級

採点の観点④

理由

3級のツボ!

よくある例

個人の感覚に基づいて理由を述べている

結果通知
コメント

△…個人的な内容にとどまり、説得力に欠けます。一般的な理由を述べましょう。



自分ならどう感じるかという個人の感覚を述べています。

第3段落

なぜなら、ぼくなら、失敗して落ち込んだときにアドバイスをしてもらえたら、うれしい気持ちになると思うからだ。



自分の場合だけでなく多くの人にとってあてはまると読める形に書きかえました。
多くの人に当てはまると読めます。

失敗するとだれでも落ち込むものだ。そんなときに、友人がアドバイスをしてくれると、人はうれしい気持ちになるのだ。

指導ポイント

個人的な感覚では、他の人にも当てはまるとは限らないため、理由として弱くなってしまいます。「理由」はだれにでも該当するような一般的な説明であることが必要だと指導してください。

よくある例

自分の体験を理由として述べている

△…個人的な内容にとどまり、説得力に欠けます。一般的な理由を述べましょう。

結果通知
コメント

体験を理由の形で提示しています。



第3段落

なぜなら、以前、失敗した友人にアドバイスをしたら、傷口に塩を塗るようなまねはすると言われたからだ。

体験（事実）だけでは、意見を支える理由としては不十分です。そのため、右の答えは、「④理由」の項目で減点しています。

なお、体験（事実）を「なぜなら〜からだ」のように、理由と読める形で第3段落に提示している場合は、これを「理由」と認め、「段落構成」の項目では減点しません。↓16ページ参照。

その場限りのものではないと読める形に、理由を書き直しました。

一般的な理由を述べます。

第3段落

失敗したとき、だれしも落ち込むものだ。そのときに必要なのは共感して慰めることだ。失敗の原因を指摘して、今後のためのアドバイスをすることは、相手を否定していると受け取られかねない。



指導ポイント

第1段落とは別の体験などの事実を述べて、理由としている例が多くありますが、事実だけでは理由として弱すぎます。その場限りではない一般化された理由を述べるように指導してください。

結果資料と一緒にお届けした、「つぶたろと学ぶ 意見文おさらいプリント」でも「理由」について説明しています。ぜひ、生徒の皆さんにお配りください。



← つぶたろ

よくある例

事実が意見に合わない

結果通知
コメント

×…事実・意見・理由のいずれかがない、あるいは、事実と意見、意見と理由がどちらも矛盾しているなど、文章の論理性において決定的な欠点がみられます。



第1段落と第2段落

私は友人どうしてバンドを組んでいる。ボーカルのA君は、出だしのところでいつもワントテンポ遅れるので、ギターを弾いている私もつられて遅れてしまい、演奏全体が乱れてしまうことが多い。見かねたベースのB君が「おいA君。出だしのきつかけをしつかりつかむように、ドラムとベースをよく聴いてくれ」とアドバイスしたところ、A君は落ち込んでしまい、持ち味の高音の伸びも今ひとつになってしまった。

アドバイスをしたことで、よくない結果になったのだから、アドバイスしない方がよい、という意見が推測されます。

バンドは、メンバーの力を結集してこそ良い演奏ができるはずだ。友人が失敗したときは、今後のためのアドバイスをする方がよいと思う。

予想外の意見

「アドバイスをして落ち込んでしまった」という事実と「アドバイスをする方がよい」という予想外の意見が続いています。



第1段落と第2段落

「アドバイスをした方がよい」という立場に立って事実を修正（創作）し、整合性がとれるように組み立てました。

私は友人どうしてバンドを組んでいる。ボーカルのA君は、出だしのところでいつもワントテンポ遅れるので、ギターを弾いている私もつられて遅れてしまい、演奏全体が乱れてしまうことが多い。見かねたベースのB君が「おいA君。出だしのきつかけをしつかりつかむように、ドラムとベースをよく聴いてくれ」とアドバイスした。そのおかげで、次の練習からA君は出だしのところで遅れずに歌い出せるようになった。

バンドは、メンバーの力を結集してこそ良い演奏ができるはずだ。友人が失敗したときは、今後のためのアドバイスをする方がよいと思う。

指導ポイント

まず、意見を決めます。そして、その意見に合った行動でうまくいったという事実か、その意見と反対の立場の行動をして失敗した例を考えさせてください。

意見に合う出来事や体験をなかなか思い出せないこともあります。そういうときは、作家になったつもりで意見に合う事実を創作してもよいと指導してください。

よくある例

その事実だけでは、どちらの意見なのかがわからない

結果通知
コメント

△…事実だけではどちらの意見なのかがわからない、または、理由が意見を支えていないなど、説得力に欠けます。事実・意見・理由の関係を考えるようにしましょう。

その結果、どうなったかがわかりません。



地方出身のA君は、路線が複雑な東京の地下鉄にまだ慣れていないようで、よく待ち合わせ時間に遅れてくる。「また違う線に乗っちゃった」と落ち込むA君に、「A君のスマホ、ぼくのと同じだね。それなら、これを使うと便利だよ」と、乗換案内のアプリを教えてあげた。

この経験から、友人が失敗したときにはアドバイスをする方がよいと思っている。

A君は、今ではすっかり待ち合わせに遅れなくなり、あのときのアドバイスのおかげだと喜んでくれている。だれでも失敗などしたくない。しかし、失敗を防ぐ方法は、本人にはなかなか気づけないものだ。友人なら、有効なアドバイスができ、それによって友人とより親しい関係になれる。

「教えてあげた」ことがよかったかどうか、第1段落を読むだけではわかりませんが、第3段落を読むとわかります。だから、第3段落まで読めば事実が意見を支えていることになり、しかしそれでは、「事実で意見を導く」という第1段落の役割が台無しで、事実から書き始めることの意味がなくなります。その点で、論理性が損なわれています。



条件に合うよう、第3段落に書かれていた、「アドバイスした結果」を第1段落に移し、第1段落だけで「意見」を予想できるようにしました。

地方出身のA君は、路線が複雑な東京の地下鉄にまだ慣れていないようで、よく待ち合わせ時間に遅れてくる。「また違う線に乗っちゃった」と落ち込むA君に、「A君のスマホ、ぼくのと同じだね。それなら、これを使うと便利だよ」と、乗換案内のアプリを教えてあげた。A君は、今ではすっかり待ち合わせに遅れなくなり、あのときのアドバイスのおかげだと喜んでくれている。

この経験から、友人が失敗したときにはアドバイスをする方がよいと思っている。

アドバイスが成功したとわかります。だれでも失敗などしたくない。しかし、失敗を防ぐ方法は、本人にはなかなか気づけないものだ。友人なら、有効なアドバイスができ、それによって友人とより親しい関係になれる。

指導ポイント

第1段落だけで、どちらの意見につながるかわかるように、「アドバイスをした結果どうなったか」までを第1段落に書くよう指導してください。

検定問題は変わっても、生徒の皆さんがつかずく場所は変わりません。

準2級の受検者に特に多く見られる例を以下のページで取り上げ、添削例と指導ポイントを示しています。



準2級

論説文

<p>よくある例</p> <p>第3段落の内容を繰り返して反論にしている………</p> <p>33ページ</p>	<p>よくある例</p> <p>「異なる意見」が読みとれない………</p> <p>「異なる意見」に反論していない………</p> <p>32ページ</p>	<p>よくある例</p> <p>「異なる意見」が読みとれない………</p> <p>「異なる意見」に反論していない………</p> <p>32ページ</p>	<p>準2級</p> <p>採点の観点⑥ 反論</p>	<p>よくある例</p> <p>自分の体験を「理由」として述べている………</p> <p>31ページ</p>	<p>よくある例</p> <p>「理由」が「意見」を支えていない………</p> <p>30ページ</p>	<p>準2級</p> <p>採点の観点④ 理由</p>	<p>よくある例</p> <p>第2段落で主張した意見を発展させすぎて、結果、テーマから外れた論説文になっている………</p> <p>29ページ</p>	<p>よくある例</p> <p>第4段落で「異なる意見」に同調し、第2段落で主張した意見と正反対の意見を主張している………</p> <p>28ページ</p>	<p>準2級</p> <p>採点の観点③ 意見</p>	<p>よくある例</p> <p>段落ごとに指定されているものと異なる内容が多く混じり、段落の役割分担があいまいになっている………</p> <p>27ページ</p>	<p>よくある例</p> <p>段落数が4でない………</p> <p>26ページ</p>	<p>準2級</p> <p>採点の観点① 段落構成</p>
--	--	--	-----------------------------	--	--	-----------------------------	--	--	-----------------------------	---	--	-------------------------------

※設問では、1行25字の指定がされていますが、本冊子では紙面の都合上、1行の字数が異なっております。ご了承ください。

問題 衣料品などの身につける物や、家電などを買うときに、店員に相談することがあります。これについて、納得できる商品を買うためには、「店員に相談する方がいい」と「店員に相談する必要はない」という意見があります。どちらかの立場に立って、論説文を書きなさい。次の条件を守ること。

条件1 意見文は、次の順番で四つの段落に分けて書くこと。

第1段落 出来事・体験・知識を述べる。

「衣料品などの身につける物や、家電などを買うときに、店員に相談すること」について、あなたの意見を支える出来事・体験・知識を述べる。

第2段落 意見を述べる。

納得できる商品を買うためには、「店員に相談する方がいい」か「店員に相談する必要はない」のどちらか、意見を明確に述べる。

第3段落 意見の根拠を論理的に説明する。

その意見が正しくないことを説明する。

条件2 1行25字のマス目に縦書きで、必ず18行以上、

26行以内で書くこと。句読点も1字として数える。句読点が行頭に来たときは、前行末欄内または欄外にうってよい。

注意 行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。

論説文作成のステップ

何から手をつけてよいかわからず、うまく書き始められない学習者には、論説文を書くための手順から改めて学ばせることが必要です。

文章検が推奨する構成は「条件1」に示されています。その構成の実現を目指し、以下のステップを踏んで準備させましょう。

詳しくは『基礎から学べる！ 文章力ステップ 文章検準2級対応』などの書籍もご参照ください。

① 問題文をよく読む

問題文をよく読んで、与えられた二つの意見を把握します。

② 支持する意見を決める

意見 与えられた意見のどちらを支持するかを決めます。

③ 意見を支える事実・理由を考える

事実 ①②で決めた意見を支える出来事・体験・知識（＝事実）を探します。

理由 ②自分の意見を説明する理由を考えます。

④ 自分の意見を強化するため、異なる意見を退ける反論を考える

異なる意見 ①自分の意見の欠点、または、反対の意見の長所を見つめます。

反論 ②その欠点、または、長所を退ける説明を考えます。

⑤ アウトラインを決める（下書き）

「条件1」に従い、「**事実**」「**意見**」「**理由**」「**異なる意見**」+「**反論**」の順でそれぞれ段落にして並べます。

⑥ アウトラインに沿って書く（清書）

⑦ 見直す



採点のポイント

採点の観点⑤ 論理性 (21～22ページ 3級のページを参照)

- 「意見」を予想させるのに足りるだけの情報があるか。
- 予想通りの「意見」が表明されているか。
- 「意見」を説明するのに足りるだけの情報があるか。

採点の観点① 段落構成 (26～27ページ)

- 段落を四つに分けて書いているか。
- 第1段落には「事実」、第2段落には「意見」、第3段落には「理由」、第4段落には「反論」を書いているか。

採点の観点② 出来事・体験・知識

- 意見を支えるような出来事・体験・知識などの「事実」を具体的に書いているか。

採点の観点③ 意見 (28～29ページ)

- 問題文で提示された意見のどちらを支持するか、条件付けや場合分けなどをせず、明確に述べているか。

採点の観点④ 理由 (30～31ページ)

- 書き手の個別の体験ではなく、一般的な説明になっているか。

採点の観点⑥ 反論 (32～33ページ)

- 「異なる意見」が提示されているか。
- 「異なる意見」が退けられているか。

準2級のツボ!

標準解答

「店員に相談する方がよい」立場

先日、電子レンジが壊れたため、家族で家電量販店に行った。店内で陳列された商品を見てみたが、多くの種類があり、値段も機能もさまざまで、どれを選べばよいか分からず、時間はかり過ぎていった。そこで、店員に相談したところ、こちらの予算と使用頻度の高い使い方を聞いた上で、お勧めの品を提案してくれた。さらに、今まで使っていた電子レンジにはなかった機能や、その便利な使い方を丁寧に教えてくれた。おかげで、家族全員が納得できる商品を購入することができた。

店員に相談しなければ、我が家に合った商品を買うことは難しかっただろう。このようなことをふまえると、納得できる商品を買うためには、店員に相談して決めるのがよいと言える。

店員は、商品の種類やそれぞれに備わっている機能など、扱っている品についての知識が豊富である。だから、客のニーズに合わせた品を提示できる。客の方は、店員に相談することで、多くの商品の中から、自分に合った商品を手にすることができる。結果として、満足度のいく買物となる。

他方、店員の話には専門的な用語や不要な説明が多く、店員に相談することで、客がかえって混乱してしまうという意見もある。だが、用語などが分からなければ、質問すればよいだけのことだ。納得いくまで質問すれば混乱することはない。

自分の意見

自分の意見と異なる意見

文章検の採点のポイント

準2級では上にあげた「採点の観点」について、ができているかどうかを採点しています。観点ごとに入力を満たす書き方を練習すれば説得力のある論説文を作成することができます。標準解答が採点のポイントを満たしていることをご確認ください。

採点の観点① 段落構成

よくある例 段落数が4でない



結果通知
コメント

×…段落数が4以外、必要な内容が欠落しているなど、条件1と異なっています。

事実

中学生のとき、私は母の誕生日プレゼントに服を買いたくて洋服店に行った。しかし、女性用の服に詳しくなかったため、どれを選んでよいのかわからなかった。そこで店員に相談すると、流行や評判、実際の使用感などを詳しく教えてくれた。おかげで、納得できるプレゼントを買えた。

意見

だから私は、衣料品などの身につける物や家電などを買うときは店員に相談する方がよい、という意見に賛成する。

理由

なぜなら、店員に相談すると、流行の商品や商品の評判、実際の使用感などを詳しく教えてもらえるからである。さらに、店員のおすすめの商品を覚えてもらえることもある。

反論

インターネットで人気の商品を調べることができるのだから店員に相談する必要はない、という人もいるだろう。しかし、ネットの情報は、誰が書いているかわからないものなので信用できない。それに対して、店員が商品を実際に取り扱っていることは明らかなので、その情報は信用できる。

意見

というわけで、私は、衣料品などの身につける物や家電を買うときは店員に相談する方がよい、と考える。

順序はそのまま、最終段落を削除して段落数を5から4にするだけです。



第5段落は「意見」を念押ししている形になっています。しかし、それは不要です。「条件1」に合わせて削除しましょう。

中学生のとき、私は母の誕生日プレゼントに服を買いたくて洋服店に行った。しかし、女性用の服に詳しくなかったため、どれを選んでよいのかわからなかった。そこで店員に相談すると、流行や評判、実際の使用感などを詳しく教えてくれた。おかげで、納得できるプレゼントを買えた。

だから私は、衣料品などの身につける物や家電などを買うときは店員に相談する方がよい、という意見に賛成する。
なぜなら、店員に相談すると、流行の商品や商品の評判、実際の使用感などを詳しく教えてもらえるからである。さらに、店員のおすすめの商品を覚えてもらえることもある。

インターネットで人気の商品を調べることができるのだから店員に相談する必要はない、という人もいるだろう。しかし、ネットの情報は、誰が書いているかわからないものなので信用できない。それに対して、店員が商品を実際に取り扱っていることは明らかなので、その情報は信用できる。

事実↓意見↓理由↓反論↓意見、の5段落で書かれています。段落ごとに役割分担ができてるのはよいものの、段落数が「条件1」に反します。

採点の観点① 段落構成

よくある例

段落ごとに指定されているものと異なる内容が多く混じり、段落の役割分担があいまいになっている



結果通知
コメント

△…4段落構成ですが、書かれた内容が条件1にあてはまっていません。

事実?

第3段落まで

私は衣料品や家電を買いに行くとき、いつも店員さんに自分に似合う服を相談したり買おうとしている家電の性能を尋ねたりすることにしている。自分で事前調査などしなくても、店員さんに聞くだけで新しいことが学べるし、自分の体形に似合うもの、生活スタイルに合うものが見えてくるからである。店員に相談する方が得である、と言える。

このことから私は、納得のいく買い物をするためには店員に相談する方がよい、と考える

なぜなら、衣料品や家電を買いに行く際、わざわざ自分で調べなくても、店員に教えてもらうだけで新しいことを学べるからである。それに、自分の体形に似合う服や生活スタイルに合う家電を発見させてもらえる。

(第4段落は省略)

重複

第1段落と第3段落の役割を明確にします。



第3段落まで

先日、お気に入りのパーカーに似合うパンツがないことに気づき、衣料品店に買いに出かけた。すぐに店員をつかまえて相談してみたところ、パーカーとパンツのコーディネイトについてコツを詳しく教えてもらった。結果、私好みのかっこいいパンツを買うことができて大満足だった。

このことから私は、納得のいく買い物をするためには店員に相談する方がよい、と考える。

なぜなら、わざわざ自分で調べなくても、店員に教えてもらうだけで新しいことを学べるからである。それに、自分の体形に似合う服や生活スタイルに合うものを発見させてもらえる。

(第4段落は省略)

第1段落の役割があいまいになっています。

「事実」を報告しているのは3行目「…ことにしている」までで、それ以降は「事実」でないものが混ざっています(②出来事・体験・知識)は△)。

- ◇傍線部Aは理由を述べていて第3段落の役割を横取りしています。
- ◇傍線部Bは意見を述べていて第2段落の役割を横取りしています。

採点の観点③ 意見

よくある例

第4段落で「異なる意見」に同調し、
第2段落で主張した意見と正反対の意見を主張している

×…意見が途中で変わるなど、どちらの意見なのかが明確に示されていません。

結果通知
コメント



第2段落から

こんなことがあったので、私としては、納得できる商品を買うのに店員に相談する必要はないという意見に賛成である。
なぜなら、相談された店員は店の利益を優先して利益率の高い商品を客に買わせようとするからである。すると、口車に乗せられた客は、納得できないものでも買ってしまうことになる。自分で考えて選ぶ方が自分自身の要望にかなう商品を買えるに違いない。
しかし、店員に相談する方が納得のいく買い物ができる、という意見もあるだろう。なるほど、店員が商品について詳しいことは間違いない。詳しい話を聞いてから自分で考えればよい。だから、納得のいく商品を買うには、店員に相談する方がよい。

「相談しなくてよい」という立場
「相談する方がよい」という立場

指導ポイント

第4段落で提示する「異なる意見」は退けるためのものです。退けるものをわざわざ提示するのは、第2段落で提示した自分の「意見」をより強力に主張するための戦略にほかなりません。
第4段落に書くべき「異なる意見」「反論」について詳しいことは、「⑥反論」(32・33ページ)を参照してください。



第4段落だけ書き直しました。「異なる意見」に同調するのではなく、それを退けます。

第4段落

もちろん、商品について詳しい知識があるので店員に相談する方がよい、という意見もあるだろう。しかし、店員が詳しいのは商品についてだけであり、普通、客の事情についてまでは詳しくない。客のことを知っているのは客自身である。自分に合うかどうかは自分にしかわからないのだから、自分だけで考えて決めればよい。

第4段落で第2段落と異なる立場を取ると、どちらの立場を主張しているのかわからなくなります。さらに、反論もできていないことになり(「⑥異なる意見と反論」×)、段落構成も「条件1」に反することになります(「①段落構成」×)。

採点の観点③ 意見

よくある例

第2段落で主張した意見を発展させすぎて、結果、テーマから外れた論説文になっている

△…条件をつけるなどして、意見があいまいでした。はっきりと言い切りましょう。



結果通知
コメント

先日、パソコンを買い替えようとインターネットで情報を収集した。しかし、初めて聞く情報がたくさんあり、何を基準に選べばよいかわからなくなってしまう。そこで、まずは実物を見てみよう。と家電量販店を訪れたところ、店員が親身になって相談に乗ってくれた。そして、私の使い方にふさわしい製品を提案してもらえたおかげで、納得のいく買い物ができた。

この経験から、私は、納得のいく商品を買いたいなら店員に相談すべきであると考えた。

なぜなら、素人がどれだけ調べたところで、プロである店員の知識量には勝てないからである。さらに、店員は様々な客の悩みに精通しているはずで、実際に購入した人の声も耳にしているはずなのである。

客のためでなく店が利益を上げるための商品を勧める店員もいるから相談しなくてよい、と言う人もいるだろう。しかし、そういう店員であっても、勧められる商品が自分の納得できるものであれば問題ないはずである。だから、商品を買うときに一番大切なのは、自分が納得できる商品を求めることである。

「異なる意見」は退けられており、「反論」は〇です。

「店員に相談すべきである」

「自分が納得できる商品を求めるべきである」



指導ポイント

別の「意見」が足されることで第2段落の「意見」のインパクトが弱くなり、主役が脇役になってしまうかねません。その意味で明確さが損なわれます。

第4段落だけ書き直しました。別の「意見」は削除し、「異なる意見」を退けるだけにします。

第4段落

客のためでなく店が利益を上げるための商品を勧める店員もいるから相談しなくてよい、と言う人もいるだろう。しかし、相談した相手がそういう店員であっても、要は、勧められる商品が自分の納得できるものであれば問題ないはずである。

採点の観点④ 理由

よくある例

「理由」が「意見」を支えていない

結果通知
コメント

×…理由が意見とずれている、または理由にあたる部分が見つかりません。



「店員に相談すべきである」

第2段落と第3段落

衣料品や家電を買うときは、店員に相談した方がよい。
店員にはそれぞれ専門分野があり、専門分野の商品に関してはとても参考になる意見を言ってくれるが、そうではない商品については頼りない意見しか言ってくれない。

「店員に相談すべきではない」

傍線部の前半は「相談した方がよい」意見を支えています。後半は逆に「相談しない方がよい」意見を支えています。



「店員に相談した方がよい」という立場を明確に支持する立場で書き直しました。

第2段落と第3段落

衣料品や家電を買うときは、店員に相談した方がよい。
店員は、自分が働く店で扱う商品の専門家として、店に並んでいる商品の機能や値段、長所や短所について熟知している。また、毎日たくさんの客と接しているから、客のニーズに合わせて商品を選ぶ経験も豊富なはずだ。だから、そういう店員に相談すれば、満足のいく買い物ができる。

「店員に相談すべきではない」という意見を説明する要素がなくなり、「相談した方がよい」という意見を支える理由になりました。

指導ポイント

どちらの意見も支えてしまうようでは「理由」として成り立ちません。第3段落では、第2段落で書いた「意見」を支えるような「理由」を書くようにご指導ください。

採点の観点④ 理由

よくある例 自分の体験を「理由」として述べている

△…個人的な理由にとどまり、納得できないものになっているなど説得力に欠けます。



結果通知
コメント

第1段落から第3段落まで

コロナ禍で自宅にいる時間が長くなったので、以前から弾いてみたいと思っていたギターを買いに楽器店に行った。店員に「初心者向けのギターはどれがよいか」と尋ねてみたところ、その店員は、予算や私が弾いてみたい音楽のジャンルなどについて詳しく聞き、おすすめのギターを選んでくれた。

私は、買い物をするときには店員に相談した方がよいという意見に賛成だ。

そういえば大学受験を控えた高三の時、英作文が苦手だった私は、書店の参考書売り場にいた店員にどの本がよいか相談してみたことがあった。その店員も昔英作文が苦手だったそうで、親身になって参考書を選んでくれた。大学受験を乗り切れたのもそのおかげかと思っている。

第1段落とは別の「事実」をもう一つあげています。「事実」だけでは、似た経験の持ち主でなければ同意してくれないかもしれません。これでは説得力に欠けます。



自分の体験を一般化し、個人的な経験ではなくどんな場合でも説得力を持つ「理由」として書き直しました。

第3段落

店員は商品に精通しているうえ、毎日客と接しているのので、上手に客の話を聞いてニーズをくみとり、それに合った商品を提案することができる。客の側も店員の知識を積極的に活用することで、納得する買い物をすることができるのだ。

指導ポイント

第1段落とは別の体験などの事実を述べて、理由としている答案が多くありますが、事実だけでは理由として弱すぎます。その場限りではない一般化された理由を明確に伝えるように指導してください。

準2級のツボ!

よくある例

「異なる意見」が読み取れない

よくある例

「異なる意見」に反論していない



結果通知
コメント

×…自分の立場とは異なる意見を提示し反論する部分がない、または反論と読み取ることができない内容でした。

第2段落から第4段落まで

店員は専門知識が豊富なことから、納得できる商品を買うためには、店員にどんどん相談するべきだ。

「餅は餅屋」ということわざがある。「物事はそれぞれの分野の専門家に任せるのがよい」という意味だ。買い物をするときも同じで、商品知識を豊富に持っている店員にまかせるのが無難ということだ。

これは私個人の体験であるし、店によっても様々な店員がいることもあり得る。反論もあるであろうが、昔からの知恵から、店員に相談する方がよいといえる。

どんな反論(＝異なる意見)？

「異なる意見」を提示し反論しているつもり？

第4段落は、第2段落で述べた自分の意見とは異なる立場に立つ意見をあえて提示し、これに反論することで自分の意見を強化する役割を持っています。しかし、この答案例には異なる立場の意見が全く述べられていません。

指導ポイント

「自分の意見と異なる意見」に反論しないと、自分の意見を補強することはできません。それどころか、かえって自分の意見の正しさを弱めてしまいます。反論しやすい「異なる意見」を選ぶこと、反論することを忘れないように、ご指導ください。



第4段落

「異なる意見」はあります。

店員は商品を扱うプロだが、逆に専門知識が豊富すぎて専門用語や不要な説明が多くなり、かえって混乱してしまうから、店員に相談する必要はないという意見もある。確かに商品についての知識量に差があるとアドバイスされてもあまり意味がないかもしれない。いづれにせよ、客が主体性を持って商品を選ぶ姿勢が肝要なのだと思う。

「異なる意見」に流されてしまい、反論していません。

「異なる意見」に反論し、自分の意見を強めます。

しかし、自分がその商品に関して詳しくないことを最初に伝えれば、店員も素人向けに説明を工夫してくれるはずだ。やはり店員に相談した方がよい。

採点の観点⑥ 反論

準2級のツボ!

よくある例 第3段落の内容を繰り返して反論にしている



結果通知
コメント

△…異なる意見をあげて反論することはできて
います。しかし、異なる意見の表現が十
分、反論が第3段落と同じなど、説得力に
欠けます。

第2段落から第4段落まで

納得する商品を買うために、店員に相談する必要はない。
現代では、ネット上に製品に関する豊富な情報が流れている。
作り手や使い手がそれぞれの立場で情報を発信している。ネット
上の情報は多種多様でかつ豊富なので、自分に合った情報を見つ
けることができる。わざわざ店員に尋ねるまでもない。
店員に積極的に相談すべきだという意見もあるだろう。しかし、
ネットならいつでもどこでもすぐに調べることができるのだから、
わざわざ店員に聞く必要はない。

「異なる意見」はありますが、
その根拠が示されていないので、
反論することが難しくなっ
てしまいました。

その結果、第3段落と同
じ内容で反論しています。

右の答案では、「異なる意見」を取り上げていますが、第3段
落の内容を繰り返して反論しているので十分に退けることができ
ません。



第4段落

店員は毎日多くの客に接し相談や質問に応じているのだから、
商品知識が豊富であるはずだ、だから積極的に相談すべきだとい
う意見もあるだろう。しかし、毎日のように発売されるたくさん
の新商品の全てに店員が精通しているとは思えないし、全ての店
員が商品知識を学ぶことに積極的かどうかは疑わしく、店員に相
談すれば有意義な情報が得られるとは限らない。やはり、買い物
をするときに店員に相談する必要はないと思う。

第3段落とは異なる内容で反論しました。「異なる意見」の根
拠を示したおかげで、第3段落の繰り返しにすぎませんでした。

反論しやすくするために「異なる意見」
の根拠を示しました。

指導ポイント

第4段落は、第2段落で述べた自分の意見とは異なる立場に
立つ意見をあえて提示し、これに反論を加えることで自分の意
見を強化する役割を持っています。第3段落と同じような内容
で反論しても、自分の意見を強化することはできません。

文章検2級 第2問 要約問題のご紹介

『10点アップを目指す! 指導ポイント集』は文章検4・3・準2級の問題と指導ポイントをご紹介していますが、さらにステップアップした文章検2級から「要約問題」をご紹介します。文章の要約にあたっては、内容の中核となる部分を理解し、それを条件として与えられた文字量に合わせて表現する力が求められます。文章検2級の要約問題では、グラフや図を伴う文章が提示され、データの読み取りと要約文の一部を作成する問題が出題されます。

第2問 次は、いわゆる「観光公害」の現状と対応策について述べた文章です。これを読んで、この文章を要約します。後に示した要約文を完成させるために、下の問い（問1・問2）に答えなさい。（40点）

X市では、観光業が主要な産業となっている。しかし、近年、外国人旅行者を中心とした観光客の増加に伴い、日常生活や業務に悪影響もたらされる「観光公害」への不満が高まっている。そこで、観光公害の現状を把握し、対応策を検討することとした。

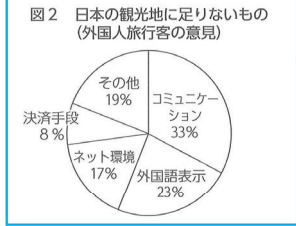
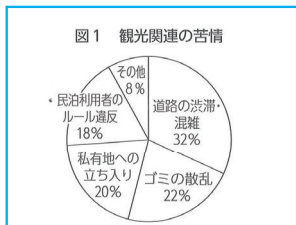


図1は、市民から寄せられた観光関連の苦情を集計したものである。最も多かったのは観光バスによる道路の渋滞・混雑であり、①。以下、観光客がポイ捨てしたゴミの散乱、観光客の私用地への立ち入り、民泊利用者のルール違反が、ほぼ同じ割合で続く。このうち、道路の渋滞・混雑以外は、いずれも②。観光バスによる混雑についてはバスターミナルの増設など大がかりな施設の整備が必要であり、すぐには対応できない。まずは、マナーやルールにかかわるトラブルへの対応に取り組むべきであろう。

次に、外国人旅行者を対象に行った、旅行中の不満についての調査結果（図2）を見てみよう。最も多かった不満は、施設や交通機関などの担当者とのコミュニケーションがうまくいかないことであり、約3割を占めた。以下、外国語表示が少ないことが2割台、Wi-Fi接続などネット環境が悪いことが1割台で続いている。情報の伝達にかかわる項目が約7割を占めており、これらの改善によって多数の外国人旅行者の不満を和らげることができる。それと同時に、観光地で必要なマナーやルールを伝えることもできる。

ただし、市民からの苦情の一部は、X市民によるものを観光客によるものと誤認している可能性があり、すべてが外国人旅行者にかかわるものであるとは言い切れない。外国人旅行者への対応を強調するあまり、外国人に対する偏見を助長するようなことになってはならない。外国人に対する情報の伝達を重視しながらも、日本人観光客やX市民などあらゆる人々に対する啓発も含む、総合的な対応策をとることが望ましい。

【要約文】

観光が主要産業であるX市では、近年、外国人を中心とした観光客の増加に伴い、「観光公害」への不満が高まっている。そこで、観光公害の現状を把握し、対応策を検討する。

市民からの観光関連の苦情で最多は観光バスによる道路の渋滞・混雑であり、①。以下、ゴミの散乱、私有地への立ち入り、民泊利用者のルール違反がほぼ同じ割合で続く。道路の渋滞・混雑以外はいずれも②。観光バスによる混雑については大規模な施設整備が必要で、すぐには対応できない。まずは、マナーやルールにかかわるトラブルへの対応に取り組むべきであろう。

ただし、市民からの苦情がすべて外国人旅行者に関連するものとは言いきれない。外国人旅行者への対応を強調するあまり、外国人への偏見を助長してはならない。外国人への情報伝達を重視しながらも、あらゆる人々への啓発も含んだ、総合的な対応策が望ましい。

問1 本文と要約文の空欄①・②には同じ語句が入ります。空欄にあてはまる最も適切なものの組み合わせを、ア～エのうちから1つ選びなさい。

ア	①4割に満たない	②買い食いの際に生じる
イ	①約3割を占めた	②個人の性格に起因するものである
ウ	①4割に満たない	②ルールの告知不足が原因である
エ	①約3割を占めた	②マナーやルールにかかわる

問2 マス目の部分にあてはまる文章を補いなさい。

解答は、1行22字のマス目に横書きで、必ず5行以上、8行以内で書きなさい。句読点も1字として数えます。句読点が行頭に来たときは、前行末欄内または欄外にうってかまいません。なお2桁以上の数字は1マスに2字入れてかまいません。

【注 意】 行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。

1 グラフの情報が正確に読み取れているかを問う問題です。グラフ中の数字や割合を理解した上で、データを正確に読み取る力を測ります。

2 文章の一部を要約する問題です。「要約する部分を特定する力」「必要な情報を取舍選択する力」「元の文を圧縮・簡略化して表現する力」を測ります。

大学入試の小論文などでも、長い文章から情報を読み取って要約文で表現する問題は定番となっています。文章検を通じて要約文を作成するコツを身につけることができます。学習には『基礎から学べる! 文章力ステップ 文章検2級対応』をご活用ください。

4級

意見文

セルフチェック
シート



意見文を書いたら、
チェックポイントができているか、
ひとつひとつ確かめてみよう



チェック項目	チェックポイント	チェック欄
段落構成 条件1の通りに書けているか	段落の数は2つである	
	第1段落に、事実(出来事・体験・知識)を書いている	
	第2段落に、意見を書いている	
出来事・体験・知識 具体的に書けているか	テーマに関連する事実を、読み手に状況が伝わるように、 意見を支えるために必要な5W1Hを入れて書いている	
意見 どちらの意見が明確に書けて いるか	自分の意見を、条件をつけたりせず、あいまいさのない形 で述べている	
論理性 事実と意見に矛盾はないか	事実を読んで推測される通りの意見が述べられている	
表記・表現 表記や表現上のミスはないか	ダ・デアル体またはデスマス体に統一している	
	誤字や脱字はない	
	文法的な誤りはない	
	すべての文末に句点「。」がある	
	段落ごとに改行している	
	段落冒頭は、1文字分あけている	
	長すぎて内容がわかりにくい文はない	

3級

意見文

セルフチェック
シート



意見文を書いたら、
チェックポイントができているか、
ひとつひとつ確かめてみよう



チェック項目	チェックポイント	チェック欄
段落構成 条件1の通りに書けているか	段落の数は3つである	
	第1段落に、事実(出来事・体験・知識)を書いている	
	第2段落に、意見を書いている	
	第3段落に、意見の理由を書いている	
出来事・体験・知識 具体的に書けているか	テーマに関連する事実を、読み手に状況が伝わるように、 意見を支えるために必要な5W1Hを入れて書いている	
意見 どちらの意見が明確に書けて いるか	自分の意見を、条件をつけたりせず、あいまいさのない形 で述べている	
理由	意見の理由が、多くの人に受け入れられるような一般的 な内容になっている	
論理性 事実・意見・理由に矛盾はない か	事実を読んで推測される通りの意見が述べられている	
	第3段落の理由が、第2段落に書いた自分の意見の正し さを説明している	
表記・表現 表記や表現上のミスはないか	ダ・デアル体またはデスマス体に統一している	
	誤字や脱字はない	
	文法的な誤りはない	
	すべての文末に句点「。」がある	
	段落ごとに改行している	
	段落冒頭は、1文字分あけている	
	長すぎて内容がわかりにくい文はない	

準2級

論説文

セルフチェック
シート



論説文を書いたら、
チェックポイントができているか、
ひとつひとつ確かめてみよう



チェック項目	チェックポイント	チェック欄
段落構成 条件1の通りに書けているか	段落の数は4つである	
	第1段落に、事実(出来事・体験・知識)を書いている	
	第2段落に、意見を書いている	
	第3段落に、意見の理由を書いている	
	第4段落に、自分の意見とは異なる意見を示したうえで、その意見に反論している	
出来事・体験・知識 具体的に書けているか	テーマに関連する事実を、読み手に状況が伝わるように、意見を支えるために必要な5W1Hを入れて書いている	
意見 どちらの意見が明確に書けているか	自分の意見を、条件をつけたりせず、あいまいさのない形で述べている	
理由	意見の理由が、多くの人に受け入れられるような一般的な内容になっている	
論理性 事実・意見・理由に矛盾はないか	事実を読んで推測される通りの意見が述べられている	
	第3段落の理由が、第2段落に書いた自分の意見の正しさを説明している	
異なる意見に対する反論	自分の意見とは異なる意見とその理由を提示している	
	異なる意見の理由に対し、論理的に反論している	
表記・表現 表記や表現上のミスはないか	ダ・デアル体またはデスマス体に統一している	
	誤字や脱字はない	
	文法的な誤りはない	
	すべての文末に句点「。」がある	
	段落ごとに改行している	
	段落冒頭は、1文字分あけている	
	長すぎて内容がわかりにくい文はない	